

令和4年度
北海道博物館
年度計画（素案）

令和4年3月
北海道博物館

— 凡 例 —

○本年度計画のP7～P22における各項目の重点計画、及び一般計画の記載について、【 】中のア、イ、ウなどは、北海道博物館第2期中期目標・計画の小項目ア、イ、ウに該当する。なお、記載の無い場合は、小項目が設定されていないものとなる。

例)

●本年度計画（P7）

1 資料の収集・保存（博物館基盤グループ）

一般計画

（1）資料の収集

【ア】北海道博物館資料収集基本方針に基づく資料登録活動を継続的に実施 [年間資料情報件数見込60件程度、年間資料登録件数見込約25件程度]

⇒上記の【ア】は、下記の中期目標・計画のアに該当する。

●中期目標・計画

（1）資料の収集

ア 資料収集方針に基づき、自然・歴史・文化に関わる後世に残すべき遺産を適切に収集する。

目次

北海道博物館の組織機構と中期目標・計画の所管	4
ガバナンス体制の確立に向けた取り組み	5
令和3年度博物館総合評価 博物館評価 事前評価結果	6
1 資料の収集・保存	7
2 展示	8
3 調査研究	9
4 北海道開拓の村の整備	10
5 教育普及事業	11
6 ミュージアムエデュケーター機能の強化	12
7 施設及び周辺環境の整備	13
8 広報	14
9 評価制度の活用と利用者ニーズの把握	15
10 道民参加の推進	16
11 博物館ネットワーク	17
12 情報発信	18
13 人材育成機能の強化と社会貢献	19
14 研究成果の発信	20
15 アイヌ民族文化研究センターの事業	21
16 4つのビジョン（重点目標）	22

北海道博物館の組織機構と中期目標・計画の所管

北海道博物館は、令和3年度より組織機構を改正し、中期目標・計画で示された15の事業展開と4つのビジョン（重点目標）の実現に向け年度計画を立て、各項目を各グループが分担して取り組む。

館長	副館長	部長	グループ（主幹・主査・係）	所管項目
館長	副館長	総務部長	総括グループ	7 施設及び周辺環境の整備
			企画グループ	4 北海道開拓の村の整備 9 評価制度の活用と利用者ニーズの把握 10 道民参加の推進 11 博物館ネットワーク 13 人材育成機能の強化と社会貢献
	学芸副館長	学芸部長	博物館基盤グループ	1 資料の収集・保存 2 展示 12 情報発信
			道民サービスグループ	5 教育普及事業 6 ミュージアムエデュケーター機能の強化 8 広報
			研究戦略グループ	3 調査研究 14 研究成果の発信
		研究部長	自然研究グループ	※1～14の学芸職員の専門性に係る活動（資料の収集・整理、調査研究、展示、教育普及など）を分担
			歴史研究グループ	
			生活文化研究グループ	
			博物館研究グループ	
	アイヌ民族文化担当副館長	アイヌ民族文化研究センター長	アイヌ文化研究グループ	15 アイヌ民族文化研究センターの事業 ※1～15の研究職員の専門性に係る活動（資料の収集・整理、調査研究、展示、教育普及など）を分担

ガバナンス体制の確立に向けた取り組み

(1) 博物館内の意思決定体制と意思の共有化

- ア 博物館内には各部・グループ単位の組織のほか、館の必要により各種の会議等の組織を設ける。これらの組織・会議の運営状況及び検討経過は、運営会議において随時共有し、運営会議はこれらの適切な進捗管理に務める。
- イ 博物館における重要事項を協議するため運営会議を開催する（原則毎週1回）。会議は、副館長を議長とし、館長、副館長、部長、各グループ主幹、総務部総括グループ総括主査（事務局）を構成メンバーとする。本会議での議論に基づき、最終意思決定者である館長が、各事項の意思決定を行う。
- ウ 各グループ主幹は、運営会議終了後、重要事項を速やかにグループ構成メンバーに連絡し、意思の共有化を図る。
- エ 各グループ主幹は、簡単な打ち合わせ、もしくはメール等により構成メンバーと相互にコミュニケーションを図り、グループの懸案事項などを恒常的に把握し、必要に応じてグループ会議を開催する。また、懸案事項は、運営会議にて報告する。
- オ 運営会議は、重要事項について議論するプロセスの一環として、必要に応じて職員全体を対象とした説明会（職員全体会議）を開催し、職員から意見を聴取する。
- カ 運営会議は、博物館の1日の動向を職員全員で把握し、意思を共有化するための朝のミーティングを開催する（開館日毎日）。事務局は、総務部企画グループとし、企画グループ学芸主幹が司会を務める。
- キ 道民サービスグループは、博物館の1日の利用者サービスの動向を道民サービスグループ、解説員、指定管理者で把握し、意思を共有化するための朝のミーティングを開催する（開館日毎日）。道民サービスグループ学芸主幹が司会を務める。

(2) 博物館内の目標・業務管理体制

- ア 各グループは、中期目標・計画の実現に向け、年度計画を「重点計画」と「一般計画」に分けて年度ごとに立て、その実現に向け取り組む。
- イ 全ての職員は、その所属する上司の指揮のもと、所掌する業務の目標・計画を定め、その達成に務める。また、上司はその直属する部下職員のそれぞれの目標・計画を適正に定めるよう指示し、それらが円滑に達成されるよう統括する。
- ウ 館長、副館長、部長は、各グループ主幹の「人事評価記録書」などを活用しながら、主幹のグループ運営を管理する。
- エ 博物館は、「博物館総合評価」を活用しながら、PDCAサイクルにより目標・業務を総合的に管理する。
- オ 研究部、及びアイヌ民族文化研究センターが所管する各研究グループの目標・業務は、各研究グループの主幹がこれを管理し、研究部長・アイヌ民族文化センター長がこれを統括する。

(3) 道の各部局と博物館の連携

博物館は、館を所管する環境生活部文化局文化振興課との情報共有のもと課題の共有に務め、同課を窓口として庁内の関係各部局との緊密な連係を図る。

令和4年度年度計画 事前評価結果

第2期中期目標・計画期 博物館総合評価実施方針（令和3年4月21日：北博第125号）に基づき、博物館評価事前評価を実施した。各項目の評価結果は、以下のとおりである。

番号	項目名	第一次自己評価	第二次自己評価
1	資料の収集・保存	A	A
2	展示	A	A
3	調査研究	A	A
4	北海道開拓の村の整備	A	A
5	教育普及事業	A	A
6	ミュージアム・エデュケーター機能の強化	A	A
7	施設及び周辺環境の整備	A	A
8	広報	A	A
9	評価制度の活用と利用者ニーズの把握	A	A
10	道民参加の推進	A	A
11	博物館ネットワーク	A	A
12	情報発信	A	A
13	人材育成機能の強化と社会貢献	A	A
14	研究成果の発信	A	A
15	アイヌ民族文化研究センターの事業	A	A
16	4つのビジョン（重点目標）	A	A

令和4年度 博物館評価調書

中期目標・計画番号	1	所管 G	博物館基盤 G			
項目名	資料の収集・保存					
計画策定担当者	学芸主査	学芸主幹	所要見込額 (千円)	前年度	当年度	全体所要額
	山際秀紀	鈴木琢也		3,198	2,931	
予算計上	<input type="checkbox"/> 【重点④】榊太記憶継承事業 [資料の保管 2,576 千円、財源：基金繰入金、時限付き (15 年間)] <input type="checkbox"/> 北海道博物館事業費 (資料収集・保存管理) [355 千円]					
年度計画	重点項目 (重要性・緊急性)	【中期目標・計画/重点④】「榊太記憶継承事業」の一環として、一般社団法人全国榊太連盟より受け入れた榊太関係資料 (以下「榊連資料」) 約 6,000 点の収蔵・整理・保管				
	一般項目	(1) 資料の収集 【ア】北海道博物館資料収集基本方針に基づく資料登録活動を継続的に実施 [年間資料情報件数見込 60 件程度、年間資料登録件数見込約 25 件程度] 【イ】収集資料の調査、整理・分類・登録の推進 (各研究 G への働きかけ) (2) 収蔵機能の強化 【ア】収蔵資料データベースの効率的な運用 【イ】災害発生時の被災資料の受入れや保存処理などに対応できる機能と体制の整備に向けた検討 【ウ】収蔵スペースの確保に向けた検討・取組 (3) 資料保存環境の維持 【 】適切な資料保存環境の維持に向けた取組 【 】文化財保護法にもとづく公開承認施設 (国宝・重要文化財等の公開に適した施設・設備・体制を備えた施設) の変更申請及び会議・研修などへの参加 (4) 収蔵資料の利用への対応 【 】資料の貸出への対応 [年間見込 25 件 500 点程度] 【 】資料の特別観覧への対応 [年間見込 70 件 1,000 点程度] 【 】資料の模写品等使用への対応 (北海道博物館) [年間見込 120 件 300 点程度] 【 】資料の模写品等使用への対応 (開拓の村) [年間見込 40 件 150 点程度]				
前年度との主な変更点	・一般項目の収蔵資料データベースについて、システム更新が終了したので効率的な運用をはかることに変更。					
直近の協議会評価意見 に対する取り組み	・該当意見なし。					

【事前評価】

第一次自己評価	総括評価	学芸主幹	鈴木琢也	個別評価項目	個別評価
	Ⓐ B C	【説明】 新型コロナウイルス感染症の感染拡大という状況のなかで、特別観覧受入や資料収集等の縮小の可能性も想定されるが、年度計画などについては適切と考えられる。		中期目標・計画との整合性	Ⓐ b c
				年度計画の適切性	Ⓐ b c
				協議会評価意見の反映	Ⓐ b c
			実現の可能性	Ⓐ b c	
第二次自己評価	総括評価	学芸部長	堀 繁久	評価完了日	令和4年3月8日
	Ⓐ B C	【意見】 今後の新型コロナウイルス感染症の感染状況の変化の中、業務の中止や縮小などの可能性もあるが、年度計画等については適切と判断される。			

令和4年度 博物館評価調査

中期目標・計画番号	2	所管 G	博物館基盤 G			
項目名	展示					
計画策定担当者	学芸主査	学芸主幹	所要見込額 (千円)	前年度	当年度	全体所要額
	会田理人	鈴木琢也		17,885	13,853	
予算計上	<input type="checkbox"/> 【重点④】樺太記憶継承事業 [資料活用 3,670 千円、財源：基金繰入金、時限付き (15 年間)] <input type="checkbox"/> 北海道博物館特別展 [特別展 10,000 千円] (財源：地方創生臨時交付金) <input type="checkbox"/> 北海道博物館事業費 (総合展示) [0 千円] <input type="checkbox"/> 北海道博物館事業費 (テーマ展) [0 千円] <input type="checkbox"/> 北海道博物館事業費 (展示会等に必要な機器借上・大型プリンタ) [183 千円]					
年度計画	重点項目 (重要性・緊急性)	【中期目標・計画/重点④】収集した樺連資料の展示に向けた検討 【中期目標・計画/重点②】(2)イ) 道民参加型展示の企画・推進 【(1)イ)】利用者ニーズに基づいた総合展示の検証、段階的部分改修の検討・計画作成				
	一般項目	(1) 総合展示室の運営 【ア】総合展示室における展示資料の入替え推進 [年間延べ 40 点程度] 【ア】クローズアップ展示コーナーの更新推進 [年間 7 件 27 回程度] 【ア】アイヌ文化 Q & A (第 2 テーマ) の更新推進 [年間 3 回程度] 【ア】総合展示 2 階出口付近の参加型展示の更新 [年間 1 回程度] 【ア】第 4 テーマ「今とこれからのつくる」の入替え推進 [年間 3 件程度] 【ア】学芸員紹介コーナーの入替え [年間 1 回程度] 【イ】総合展示の小規模改訂計画の作成と本年度改訂の実施 (※) 【イ】次年度総合展示更新実施計画 (各テーマの個別資料入替、クローズアップ展示) の作成 【イ】総合展示資料目録の作成・更新 【ウ】総合展示のメンテナンスと総合展示室の管理 [随時] 【ウ】大掃除の実施計画作成と推進 [年間 1 回] (2) 企画展示の開催 【ア】他機関との連携・協働、巡回展の誘致を視野に入れた次年度以降企画展実施計画の作成 【ウ】特別展の開催推進・運営 [年間 1 件程度] 【ウ】企画テーマ展の開催推進・運営 [年間 3 件程度] 【ウ】アイヌ民族文化研究センターが主催する巡回展の開催推進・運営 [年間 1 件程度] 【ウ】企画展示に係る図録・リーフレットの編集・作成・刊行 [年間 4 件程度] 【】特別展示のメンテナンスと特別展示室の管理 [随時]				
前年度との主な変更点	・一般項目の(※)の項目は、【中期目標・計画/重点①】「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」の具体的検討 (→文化観光推進法に基づく北海道立総合博物館を拠点とした拠点計画の策定・国への認定申請等による「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」の実現に向けた取組を推進)とリンクし、より充実・拡充をめざす方向で検討、実施していくものとした項目である。					
直近の協議会評価意見 に対する取り組み	・該当意見なし。					

【事前評価】

第一次自己評価	総括評価	学芸主幹	鈴木琢也	個別評価項目	個別評価
	A B C	【説明】 新型コロナウイルス感染症の感染拡大という状況のなかで、総合展示入替え及び企画展示の計画変更等の可能性も想定されるが、年度計画などについては適切と考えられる。		中期目標・計画との整合性	(a) b c
				年度計画の適切性	(a) b c
				協議会評価意見の反映	(a) b c
			実現の可能性	(a) b c	
第二次自己評価	総括評価	学芸部長	堀 繁久	評価完了日	令和4年3月8日
	A B C	【意見】 今後の新型コロナウイルス感染症の感染状況の変化の中、事業の中止や縮小などの可能性もあるが、年度計画等については適切と判断される。			

令和 4 年度 博物館評価調査書

中期目標・計画番号	3	所管 G	研究戦略 G			
項目名	調査研究					
計画策定担当者	学芸主査	学芸主幹	所要見込額 (千円)	前年度	当年度	全体所要額
	大坂 拓	水島未記		14,697	12,438	
予算計上	<input type="checkbox"/> 【重点④】榊太記憶継承事業 [調査研究 300 千円、財源：基金繰入金、時限付き (15 年間)] <input type="checkbox"/> 北海道博物館試験研究費 (外部資金活用) [6,270 千円] <input type="checkbox"/> 北海道博物館試験研究費 (一般研究) [1,170 千円] <input type="checkbox"/> 北海道博物館試験研究費 (地域情報集積) [2,251 千円] <input type="checkbox"/> 北海道博物館試験研究費 (総合研究) [1,388 千円] <input type="checkbox"/> 北海道博物館試験研究費 (北方文化研究) [1,059 千円] ※アイヌ民族文化研究センターの研究プロジェクト研究費は、北海道博物館事業費 (アイヌ民族文化研究センター・調査研究費) [920 千円] として計上 (→「15 アイヌ民族文化研究センターの事業」を参照のこと)					
年度計画	重点項目 (重要性・緊急性)	【中期目標・計画/重点④】「榊太記憶継承事業」(榊連資料を活用した調査研究) の実施推進 [道費による研究]				
	一般項目	<input type="checkbox"/> 【ア】北海道の自然・歴史・文化総合研究プロジェクトの実施推進 [道費による研究：4 課題] <input type="checkbox"/> 【ア】アイヌ民族文化研究センターの研究プロジェクトの実施推進 [道費による研究：2 課題] <input type="checkbox"/> 【イ】道民・地域との協働・連携による地域情報集積プロジェクトの実施推進 [道費による研究：5 課題] <input type="checkbox"/> 【ア】【ウ】科学研究費による研究の実施推進 [競争的外部資金による研究：13 課題+α 見込み] <input type="checkbox"/> 【ア】【ウ】科学研究費以外の競争的外部資金による研究の実施推進 [競争的外部資金による研究：2 課題] <input type="checkbox"/> 【エ】北東アジアのなかの北海道研究プロジェクトの実施推進 (サハリン州郷土博物館、ロイヤル・アルバータ博物館との共同研究・学術交流の推進) [道費による研究：2 課題] <input type="checkbox"/> 【オ】研究課題評価の実施 [道費による研究：13 課題] <input type="checkbox"/> 【オ】館内定例研究報告会の実施 [年間 12 回]				
前年度との主な変更点	・変更点なし。					
直近の協議会評価意見 に対する取り組み	・該当意見なし。					

【事前評価】

第一次自己評価	総括評価	学芸主幹	水島未記	個別評価項目	個別評価
	Ⓐ B C	【説明】 コロナ禍により R4 年度も当初の計画どおり実施できない研究課題が多いと予想されるが、その点は予測不可能であるため現時点は想定で評価するしかなく、年度計画全体としては妥当であると判断しておく。		中期目標・計画との整合性	Ⓐ b c
				年度計画の適切性	Ⓐ b c
				協議会評価意見の反映	Ⓐ b c
実現の可能性				Ⓐ b c	
第二次自己評価	総括評価	学芸部長	堀 繁久	評価完了日	令和 4 年 3 月 8 日
	Ⓐ B C	【意見】 緊急事態宣言の発令による移動の自粛などにより、各研究プロジェクトが円滑に研究を進められるかどうか未定の部分があるが、計画と評価は妥当であると判断できる。			

令和 4 年度 博物館評価調書

中期目標・計画番号	4	所管 G	企画 G			
項目名	北海道開拓の村の整備					
計画策定担当者	学芸主査	学芸主幹	所要見込額 (千円)	前年度	当年度	全体所要額
	東俊佑	池田貴夫		2,530	2,552	
予算計上	□開拓の村費（開拓の村老朽度調査）[2,552 千円] ※開拓の村建造物の改修工事は、建設部計上の開拓の村改修工事 [204,512 千円]、及び開拓の村電気・機械設備改修工事 [56,909 千円] により建設部が執行予定。					
年度計画	重点項目 (重要性・緊急性)	【中期目標・計画/重点①】【ウ】「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」(平成 30 年 12 月策定) に関わる北海道開拓の村のあり方の具体的取組の検討 (※)				
	一般項目	【ア】北海道開拓の村歴史的建造物の補修工事実施設計(発注:建設部、指導・助言:博物館)[年間 2 件程度] 【ア】北海道開拓の村歴史的建造物の老朽度調査[年間 2 件程度] 【ア】北海道開拓の村歴史的建造物のメンテナンス [随時] 【ア】北海道開拓の村歴史的建造物等の補修計画の検討・調整・作成(計 52 棟+インフラ) 【イ】北海道開拓の村歴史的建造物の内部展示および展示資料の管理・充実(随時、基盤 G と連携して実施) (※) 【イ】北海道開拓の村歴史的建造物の内部展示改修・改訂計画の検討・調整・作成(計 52 棟)(※) 【イ】スマートフォンを利用した展示解説アプリ「ポケット学芸員」による多言語解説サービス運用・検証・改善 [6 力国語、110 コンテンツ] 【ウ】北海道開拓の村歴史的建造物の魅力発信コンテンツの制作・発信 (※)				
前年度との主な変更点	・重点項目、一般項目の(※)の項目は、【中期目標・計画/重点①】「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」の具体的検討(→文化観光推進法に基づく北海道立総合博物館を拠点とした拠点計画の策定・国への認定申請等による「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」の実現に向けた取組を推進)とリンクし、より充実・拡充をめざす方向で検討、実施していくものとした項目である。					
直近の協議会評価意見 に対する取り組み	・該当意見なし。					

【事前評価】

第一次自己評価	総括評価	学芸主幹	池田貴夫	個別評価項目	個別評価
	Ⓐ B C	【説明】 上記計画は妥当である。文化振興課と連携しに開拓の村維持・活用方針を定めるとともに、「構想」を実現していくための中長期的な取組に着手していく必要がある。		中期目標・計画との整合性	Ⓐ b c
				年度計画の適切性	Ⓐ b c
				協議会評価意見の反映	Ⓐ b c
実現の可能性				Ⓐ b c	
第二次自己評価	総括評価	総務部長	川田宣人	評価完了日	令和 4 年 3 月 8 日
	Ⓐ B C	【意見】 開拓の村の現状と課題を踏まえ、中長期的な取組に繋がる計画として適切と考える。			

令和4年度 博物館評価調査

中期目標・計画番号	5	所管G	道民サービスG			
項目名	教育普及事業					
計画策定担当者	学芸主査	学芸主幹	所要見込額 (千円)	前年度	当年度	全体所要額
	遠藤志保	三浦泰之		1222	326	
予算計上	□北海道博物館事業費（魅力あるイベント事業）[326千円] ※北海道博物館特別展（記念子どもイベント）は、北海道博物館特別展（財源：地方創生臨時交付金）の一部を使用予定。（→「2 展示」を参照のこと） ※解説員（一般職非常勤職員）及び会計年度任用職員の人件費は除く。					
年度計画	重点項目 (重要性・緊急性)	【中期目標・計画/重点①】「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」（平成30年12月策定）に関わる教育普及事業のあり方の具体的な取組の検討(※)				
	一般項目	(1) 魅力あるイベントの充実 【ア】【イ】【ウ】一般普及行事の実施推進 [年間50回程度] 【ア】【イ】 総合展示室等で行うイベントの実施推進 [随時] 【ア】「ちゃれんがラリー」の実施と検証・改善・拡充 [常時] 【ア】【イ】【ウ】次年度普及行事実施計画の作成 【エ】「情報デスク」を活用した交流・誘導 [常時] 【エ】 解説員による総合展示の展示解説 [常時] 【エ】 解説員等による展示室・はっけん広場等の展示解説活動の今後のあり方の検討・試行(※) (2) 社会的ニーズに合わせた教育普及事業の充実 【ア】 学校団体および一般団体を対象とした「グループレクチャー」の実施 [10メニュー] 【ア】 はっけん広場における学校団体等を対象とした「はっけんプログラム」の実施 [6メニュー] 【イ】「ポケット学芸員」による多言語解説サービスの運用・検証・改善・拡充 【イ】 展示解説器（音声ガイド）を利用した多言語解説サービスの運用・検証・改善・拡充 【イ】 総合展示解説書「ビジュアル北海道」の検証と、ワークブック、新しい展示解説書の作成検討 【イ】 総合展示室における子ども向け展示解説の検討 【イ】 ウェブサイト内「はくぶつかんであそぼう！子どものページ」の内容検討・更新 【イ】 視覚障がい者向け「さわれる博物館キット」の運用・検証・改善・拡充 【イ】 オンライン事業「おうちミュージアム」の運用・検証・改善・拡充 (3) はっけん広場の運営 【ア】 解説員によるはっけん広場の展示解説 [常時] 【ア】【イ】「はっけんイベント」の実施 [年間7メニュー] 【イ】「はっけんキット」の運用 [41メニュー] 【ウ】 学校教育用補助教材の貸出と開発の推進				
前年度との主な変更点	・重点項目、一般項目の(※)の項目は、【中期目標・計画/重点①】「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」の具体的な検討（→文化観光推進法に基づく北海道立総合博物館を拠点とした拠点計画の策定・国への認定申請等による「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」の実現に向けた取組を推進）とリンクし、より充実・拡充をめざす方向で検討、実施していくものとした項目である。					
直近の協議会評価意見に対する取り組み	・該当意見なし。					

【事前評価】

第一次自己評価	総括評価	学芸主幹	三浦泰之	個別評価項目	個別評価
	Ⓐ B C	【説明】 新型コロナウイルス感染症の感染拡大という状況の中、対面型・接触型の事業の中止や臨時休館による事業の縮小などの可能性も想定されるが、年度計画などについては適切と考えられる。		中期目標・計画との整合性	Ⓐ b c
				年度計画の適切性	Ⓐ b c
				協議会評価意見の反映	Ⓐ b c
			実現の可能性	Ⓐ b c	
第二次自己評価	総括評価	学芸部長	堀 繁久	評価完了日	令和4年3月8日
	Ⓐ B C	【意見】 今後の新型コロナウイルス感染症の感染状況の変化の中、事業の中止や縮小などの可能性もあるが、年度計画等については適切と判断される。			

令和4年度 博物館評価調書

中期目標・計画番号		6	所管 G	道民サービス G		
項目名		ミュージアムエデュケーター機能の強化				
計画策定担当者		学芸主査	学芸主幹	所要見込額 (千円)	前年度	当年度
		遠藤志保	三浦泰之		0	0
予算計上						
年度計画	重点項目 (重要性・緊急性)	【ウ】新学習指導要領を踏まえた小学校、中学校、高等学校、特別支援学校児童・生徒の主体的・対話的で深い学びをサポートするための具体的取組の検討				
	一般項目	【ア】文化庁や北海道博物館協会（およびそのブロック組織）等において実施されるミュージアムエデュケーター養成関連研修会への職員派遣の調整 [都度実施] 【ア】博物館職員の教育普及活動向上に必要な館内研修会等の企画の検討 【ア】解説員研修の実施 [都度実施] 【イ】学校団体の博物館利用を促進するための学校教職員向けの研修会の実施 ・「教員のための博物館の日」への参加 [年間1回、8月、対象：学校教員等] ・「博物館教育プログラム研修会」の実施 [年間1回、1月、対象：学校教員等] 【イ】学校団体の博物館利用を促進するための学校教職員、及び旅行会社向け下見対応の実施 [年間30件程度] 【イ】学校団体の博物館利用を促進するための「学校利用ガイド」の編集・刊行 [年1回] 【イ】学校団体向けワークシートの運用・検証・改善・拡充				
前年度との主な変更点		・変更点なし。				
直近の協議会評価意見に対する取り組み		・該当意見なし。				

【事前評価】

第一次自己評価	総括評価	学芸主幹	三浦泰之	個別評価項目		個別評価
	Ⓐ B C	【説明】 新型コロナウイルス感染症の感染拡大という状況の中、対面型・接触型の事業の中止や臨時休館による事業の縮小などの可能性も想定されるが、年度計画などについては適切と考えられる。	中期目標・計画との整合性		Ⓐ b c	
			年度計画の適切性		Ⓐ b c	
			協議会評価意見の反映		Ⓐ b c	
実現の可能性			Ⓐ b c			
第二次自己評価	総括評価	学芸部長	堀 繁久	評価完了日	令和4年3月8日	
	Ⓐ B C	【意見】 今後の新型コロナウイルス感染症の感染状況の変化の中、事業の中止や縮小などの可能性もあるが、年度計画等については適切と判断される。				

令和4年度 博物館評価調査

中期目標・計画番号	7	所管 G	総括 G			
項目名	施設及び周辺環境の整備					
計画策定担当者	主査	主幹	所要見込額 (千円)	前年度	当年度	全体所要額
	三國正雄	川田宣人		359,629	355,164	
予算計上	<input type="checkbox"/> 北海道博物館管理運営費 [342,546 千円、指定管理負担金 (博物館、開拓の村、自然ふれあい交流館、森林公園含む)] <input type="checkbox"/> 野幌森林公園管理費 (庁舎等維持費) [3,618 千円] <input type="checkbox"/> 野幌森林公園施設整備費 [9,000 千円]					
年度計画	重点項目 (重要性・緊急性)	【中期目標・計画/重点①】【(3)】「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」(平成 30 年 12 月策定)に関わる具体的取組の検討 (※)				
	一般項目	(1) 館内施設の整備と活用 【ア】特別展の開催に合わせたグッズ販売など博物館の魅力アップの取組に向けた検討 【ア】老朽化した施設・設備の補修、および快適かつ安全な施設利用に向けた検討・取組 (※) 【ア】年齢、母語、障がいの有無などを問わず快適に利用できるユニバーサル・ミュージアムをめざすための総合展示室その他館内における施設・設備の整備に向けた検討・取組 【イ】屋上スカイビューの特別開放を実施 [年間8回] 【イ】記念ホールの開放 [随時] (2) 周辺環境の整備 【ア】JR 北海道、JR 北海道バス、指定管理者等と連携し、アクセス向上に向けた検討・取組 (※) 【イ】サインの統一化に向けた検討・取組 (※) 【ウ】野外展示の具体化に向けた検討・取組 【 】野幌森林公園内の危険木の処理および老朽化した設備の改修 (3) 野幌森林公園内施設との一体的な取組の推進 【 】関係機関との連絡会議・協議会への運営・参加				
前年度との主な変更点	・(1)館内施設の整備と活用におけるオリジナルグッズは、平成 27 年の北海道博物館開館時に開発したものをミュージアムショップで販売継続とし、本年度は特別展の開催に合わせたグッズ販売の実施の可能性について、実行委員会で検討・調整することとした。 ・重点項目、一般項目の(※)の項目は、【中期目標・計画/重点①】「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」の具体的検討 (→文化観光推進法に基づく北海道立総合博物館を拠点とした拠点計画の策定・国への認定申請等による「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」の実現に向けた取組を推進)とリンクし、より充実・拡充をめざす方向で検討、実施していくものとした項目である。					
直近の協議会評価意見に対する取り組み	・該当意見なし。					

【事前評価】

第一次自己評価	総括評価	主幹	川田宣人	個別評価項目		個別評価
	A B C	【説明】 コロナ感染状況によっては施設活用など一部事業縮小も想定されるが、文化観光推進法に基づく計画検討に合わせ、アクセス向上やサイン統一化など利便性向上に向けた検討・取組など、年度計画については適切と考える。	中期目標・計画との整合性		a b c	
			年度計画の適切性		a b c	
			協議会評価意見の反映		a b c	
実現の可能性			a b c			
第二次自己評価	総括評価	総務部長	川田宣人	評価完了日	令和4年3月8日	
	A B C	【意見】 同上				

令和4年度 博物館評価調査

中期目標・計画番号	8	所管G	道民サービスG			
項目名	広報					
計画策定担当者	学芸主査	学芸主幹	所要見込額 (千円)	前年度	当年度	全体所要額
	青柳かつら	三浦泰之		599	529	
予算計上	北海道博物館事業費(広報サービス事業費)[529千円] ※上記は印刷製本費。発送費は、野幌森林公園管理費(庁舎等維持費)のなかの通信運搬費[520千円]より発送分を使用。					
年度計画	重点項目 (重要性・緊急性)	【(1)ア】各種イベント、特に特別展への誘客促進に向けた取組				
	一般項目	(1) 広報活動の強化 【ア】報道機関等への対応(新聞、雑誌、テレビ、ラジオほか) [掲載・報道見込:年間延べ400件程度] 【ア】報道機関等へ戦略的に働きかけていく広報活動の実施 【ア】各種広報媒体への学術的な情報や知見の提供(協力、寄稿、出演等)の推進 [年間延べ100件程度] 【ア】招待講演(講座・講演会)等への職員派遣に伴う道民と直に接する広報活動の推進 【ア】ICTを活用した広報(ウェブサイト、Twitter等による展示、教育普及、その他博物館活動に関する情報の発信)の実施(年間200回程度)(※) 【ア】広報誌『森のちゃれんがニュース』の編集・発行・配布(年間4回(季刊)刊行) 【ア】『行事あんない』の編集・発行・配布(年間2回(前期・後期)刊行) 【ア】特別展ポスター、チラシの編集・作成・配布(年間1回) 【ア】企画テーマ展ポスター、チラシの編集・作成・配布(年間3回) 【ア】特別イベント等のポスター、チラシの編集・作成・配布(年間1回程度) 【ア】各種印刷・刊行物の発送・配布(年間7回程度) 【ア】修学旅行その他団体旅行の誘致に向けた検討・取組 【ア】海外に向けた情報発信の強化に向けた検討 【イ】愛称やロゴマークの積極的活用 【イ】愛称およびロゴマークの浸透に向けた取組に連動し、北海道博物館の建物そのものが「森のちゃれんが」として見て美しい建物として認知され、ブランド化されていくための検討 (2) 他機関との連携による広報活動の強化 【 】北海道生涯学習協会と連携した一般普及行事の「道民カレッジ連携講座」への登録申請(年間2回) 【 】他機関との連携による広報活動の実施(年間5件程度)				
前年度との主な変更点	・令和3年度に計画した『重点項目【(1)ア】修学旅行その他団体旅行の誘致に向けた検討・取組』を一般項目とし、『【(1)ア】各種イベント、特に特別展への誘客促進に向けた取組』を重点項目とした。これは、仮にアフターコロナになっても感染症対策は当面の間徹底させる必要があるという観点から、大規模な団体利用を積極的に誘致するというよりは、コロナ禍でやはり落ち込んだ身近な利用者層、札幌市及びその近郊からの来館を促進するために、各種イベント、特に特別展への誘客促進(感染症対策との対立)をするものである。 ・重点項目、一般項目の(※)の項目は、【中期目標・計画/重点①】「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」の具体的検討(→文化観光推進法に基づく北海道立総合博物館を拠点とした拠点計画の策定・国への認定申請等による「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」の実現に向けた取組を推進)とリンクし、より充実・拡充をめざす方向で検討、実施していくものとした項目である。					
直近の協議会評価意見 に対する取り組み	・該当意見なし。					

【事前評価】

第一次自己評価	総括評価	学芸主幹	三浦泰之	個別評価項目		個別評価
	Ⓐ B C	【説明】 新型コロナウイルス感染症の感染拡大という状況の中、対面型・接触型の事業の中止や臨時休館による事業の縮小などの可能性も想定されるが、年度計画などについては適切と考えられる。		中期目標・計画との整合性	Ⓐ b c	
				年度計画の適切性	Ⓐ b c	
				協議会評価意見の反映	Ⓐ b c	
実現の可能性				Ⓐ b c		
第二次自己評価	総括評価	学芸部長	堀 繁久	評価完了日	令和4年3月8日	
	Ⓐ B C	【意見】 今後の新型コロナウイルス感染症の感染状況の変化の中、事業の中止や縮小などの可能性もあるが、年度計画等については適切と判断される。特に速報性の高いSNS等を通じた広報はコロナの状況で変化する事業の周知で重要と考える。				

令和4年度 博物館評価調書

中期目標・計画番号		9	所管G	企画G		
項目名		評価制度の活用と利用者ニーズの把握				
計画策定担当者		学芸主査	学芸主幹	所要見込額 (千円)	前年度	当年度
		東俊佑	池田貴夫		416	416
予算計上		【環境生活部総務課計上】 □総務管理諸費(各種審議会経費:北海道立総合博物館協議会)[416千円]				
年度計画	重点項目 (重要性・緊急性)	【イ】オーディエンス・リサーチ(利用者調査)の実施検討				
	一般項目	<p>(1)評価制度の活用</p> <p>【ア】前年度の事業実績の取りまとめの推進</p> <p>【ア】「博物館総合評価」における自己評価の実施推進・運営[事前評価1回、事後評価1回]</p> <p>【ア】『要覧』の編集・刊行[年1回]</p> <p>【イ】「北海道立総合博物館協議会」による調査審議、外部評価、自己評価、オーディエンス・リサーチに基づいた事業改善ならびに次年度年度計画の作成</p> <p>【ウ】「北海道立総合博物館協議会」の開催(年間2回)による調査審議と外部評価の実施推進・運営</p> <p>【ウ】「北海道立総合博物館協議会アイヌ民族文化研究センター専門部会」の開催(年間1回)による調査審議と外部評価の実施推進・運営</p> <p>(2)利用者ニーズの把握</p> <p>【イ】特別展、企画テーマ展、アイヌ文化巡回展期間の来館者アンケート調査による利用者ニーズの把握および利用者満足度の測定・分析</p> <p>【イ】利用者満足度調査による利用者ニーズの把握および利用者満足度の測定・分析(秋期の一定期間実施)</p> <p>【イ】解説員活動日誌による利用者ニーズ・意見の把握・分析(開館日毎日)</p> <p>【イ】図書室業務日誌による利用者ニーズ・意見の把握・分析(開館日毎日)</p> <p>【イ】アイヌ文化Q&A(総合展示室第2テーマ)による利用者ニーズ・意見の把握・分析(開館日毎日)</p> <p>【イ】指定管理者日報による利用者ニーズ・意見の把握・分析(開館日毎日)</p> <p>【イ】口頭・電話・メール・手紙等の受理による利用者ニーズ・意見の把握(開館日毎日)</p>				
前年度との主な変更点		<p>・(コロナ禍による臨時休館により)令和3年度に実施できなかった重点項目「出口調査・追跡調査によるオーディエンス・リサーチ(利用者調査)の実施[年1回程度]」を「オーディエンス・リサーチ(利用者調査)の実施検討」に改めた。これは、従来の出口調査・追跡調査による利用者調査、アンケート調査・各種日誌からの利用者ニーズや意見の把握、利用者満足度調査を含め、総合的・俯瞰的な見地から利用者ニーズの把握のとり方を見直し、北海道博物館の新たな「オーディエンス・リサーチ」として構築・確立する必要があると考えたからである。また、旧開拓記念館で実施していた「ミュージアム・メイト」の取り組み(道民によるモニター制度)も組み込んだ形で検討する必要があると考えている。</p>				
直近の協議会評価意見に対する取り組み		<p>・令和3年度第1回博物館協議会において、新しい「博物館総合評価」のやり方や調書の書き方についてさまざまなご指摘をいただいた。ご指摘を踏まえ修正を図っていきたい。</p>				

【事前評価】

第一次自己評価	総括評価	学芸主幹	池田貴夫	個別評価項目		個別評価
	A B C	【説明】 上記計画は妥当である。新しい「博物館総合評価」の実効性の確立、利用者調査に基づく多様な意見の把握→改善のサイクルの確立、「利用者満足度」の客観的な把握に向けた取組が必要である。	中期目標・計画との整合性		(a) b c	
			年度計画の適切性		(a) b c	
			協議会評価意見の反映		(a) b c	
実現の可能性			(a) b c			
第二次自己評価	総括評価	総務部長	川田宣人	評価完了日	令和4年3月8日	
	A B C	【意見】 博物館協議による調査審議や評価をはじめ、利用者ニーズの把握等が今後の博物館運営の改善につながるよう、より実効性のある取組として適宜必要な見直しを行いながら進めることが重要。				

令和4年度 博物館評価調査

中期目標・計画番号	10	所管 G	企画 G			
項目名	道民参加の推進					
計画策定担当者	学芸主査	学芸主幹	所要見込額 (千円)	前年度	当年度	全体所要額
	東俊佑	池田貴夫		0	0	
予算計上						
年度計画	重点項目 (重要性・緊急性)	<p>【中期目標・計画/重点②】【ア】【イ】 道民参加型学習サークル活動の推進（各研究 G へのサークル立ち上げへの働きかけ）</p> <p>【中期目標・計画/重点②】【ア】 第 3 期中期目標・計画期におけるボランティア活動の導入を含めた総合展示室、はっけん広場、図書室等での利用者対応組織の検討（道民サービス G と連携し、検討ワーキンググループを立ち上げ）</p> <p>【中期目標・計画/重点②】【ウ】 北海道博物館の各種活動に協働参画しかつ館長の諮問に応える支援組織（ミュージアム・パートナー：旧開拓記念館のミュージアム・メイト）の整備に向けた検討</p>				
	一般項目	<p>【ア】【イ】 道民参加型学習サークル活動の推進（道民サービス G と連携）</p> <p>【ア】 博物館基盤整備に係るボランティア活動の推進（博物館基盤 G と連携）</p> <p>【ア】 道民参加型調査研究の推進（研究戦略 G と連携）</p> <p>【ア】 道民参加型展示の推進（博物館基盤 G と連携）（※）</p> <p>【ア】 ウェブサイト内「博物館の活動に参加しよう」の内容検討・更新</p> <p>【イ】 博物館実習生が企画・作成する展示コーナーの運営（年間夏期 1 回実施）</p> <p>【ア】【イ】 道民参加型学習サークル活動の推進（道民サービス G と連携）</p> <p>【ア】 博物館基盤整備に係るボランティア活動の推進（博物館基盤 G と連携）</p> <p>【イ】 道民参加型調査研究の推進（研究戦略 G と連携）</p> <p>【イ】 道民参加型展示の推進（博物館基盤 G と連携）</p> <p>【ア】 ウェブサイト内「博物館の活動に参加しよう」の内容検討・更新</p> <p>【イ】 博物館実習生が企画・作成する展示コーナーの運営（年間夏期 1 回実施）</p>				
前年度との主な変更点	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度年度計画で頭出ししていた重点項目「小中学生以下の子どもを対象としたジュニアクラブ活動の推進（各研究 G へのサークル立ち上げへの働きかけ）」を削除した。子どもに限定したクラブ活動の立ち上げをめざすよりは、年齢で区切らず、(化石、自然観察など) 特定分野の調査研究型サークルの設立をめざした方が現実的と考えたからである。 一般項目の(※)の項目は、【中期目標・計画/重点①】「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」の具体的検討（→文化観光推進法に基づく北海道立総合博物館を拠点とした拠点計画の策定・国への認定申請等による「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」の実現に向けた取組を推進）とリンクし、より充実・拡充をめざす方向で検討、実施していくものとした項目である。 					
直近の協議会評価意見に対する取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度第1回博物館協議会において、「ちゃれんが古文書クラブ」の活動が地道に継続されており、高く評価できるとの意見をいただいた。今後もサークル活動の数を少しずつ増やし、地道な活動を展開していきたい。 					

【事前評価】

第一次自己評価	総括評価	学芸主幹	池田貴夫	個別評価項目	個別評価
	Ⓐ B C	<p>【説明】</p> <p>上記計画は妥当である。「ちゃれんが古文書クラブ」などサークル活動の推進、道民参加型の展示・調査研究の推進をとおりて、ボランティア活動の導入や支援組織の整備に結びつけていく必要がある。</p>		中期目標・計画との整合性	Ⓐ b c
				年度計画の適切性	Ⓐ b c
				協議会評価意見の反映	Ⓐ b c
				実現の可能性	Ⓐ b c
第二次自己評価	総括評価	総務部長	川田宣人	評価完了日	令和4年3月8日
	Ⓐ B C	<p>【意見】</p> <p>評価された活動の継続のほか、様々な取組における道民参加の機会創出などにより、中長期的な課題解決につなげられるよう取り組んでいくことが必要。</p>			

令和4年度 博物館評価調書

中期目標・計画番号	11	所管 G	企画 G			
項目名	博物館ネットワーク					
計画策定担当者	学芸主査	学芸主幹	所要見込額 (千円)	前年度	当年度	全体所要額
	東俊佑	池田貴夫		70	70	
予算計上	【環境生活部総務課計上】 <input type="checkbox"/> 総務管理諸費（各種負担金：公益財団法人日本博物館協会会費）[55 千円] <input type="checkbox"/> 総務管理諸費（各種負担金：北海道博物館協会会費）[15 千円] ※北海道博物館協会の運営（事務局館）に係る経費は、北海道博物館協会から支出。					
年度計画	重点項目 (重要性・緊急性)	【中期目標・計画/重点③】【(2)ア】 国立アイヌ民族博物館との連携による北海道内博物館の活性化に向けた検討（道内博物館への誘客促進、今後の連携・協働・役割分担についての協議）（アイヌ民族文化研究センターと連携）				
	一般項目	(1) 各種博物館団体との連携 【ア】 日本博物館協会との連携・協力、北海道支部の運営 【ア】 全国歴史民俗系博物館協議会との連携・協力 【イ】 北海道博物館協会との連携・協力 【イ】 北海道博物館協会の運営（担当職員が事務局を兼務して執行） 【イ】 北海道博物館協会学芸職員部会等への職員の積極的参画の促進 (2) 博物館交流の促進 【ア】 周辺施設とのネットワーク事業の実施 [年間 3 件程度] 【ア】 外部主催イベントへの参画 [年間 3 件程度] 【イ】 道内学芸職員対象の研修会等の開催検討（学芸職員部会との連携）				
前年度との主な変更点	・令和3年度までの重点項目「全国博物館大会の事務局館としての庶務」を削除した。 ・(2)の「北海道博物館協会と連携した学芸職員対象の研修会の開催検討（学芸職員部会との連携）」を「道内学芸職員対象の研修会等の開催検討」に書き替えた。北海道博物館協会や学芸職員部会との連携に限定せず、道内中核的博物館としての役割を当館や国立アイヌ民族博物館が発揮すべきと考えたからである。					
直近の協議会評価意見 に対する取り組み	・令和3年度第1回博物館協議会において、北海道の拠点博物館としての当館のネットワーク構築活動が高く評価された。今後も継続的に取り組んでいく必要がある。					

【事前評価】

第一次自己評価	総括評価	学芸主幹	池田貴夫	個別評価項目	個別評価
	Ⓐ B C	【説明】 上記計画は妥当である。日博協の支部長館、歴民協の北海道ブロック幹事館、北海道博物館協会の事務局館、周辺施設ネットワークの幹事館として、北海道の中核的博物館としての役割を果たしていく必要がある。		中期目標・計画との整合性	Ⓐ b c
				年度計画の適切性	Ⓐ b c
				協議会評価意見の反映	Ⓐ b c
実現の可能性				Ⓐ b c	
第二次自己評価	総括評価	総務部長	川田宣人	評価完了日	令和4年3月8日
	Ⓐ B C	【意見】 当館の使命の一つである北海道の中核的な博物館として、博物館協会の事務局としての役割や他施設との連携事業の取組などにより、ネットワーク構築に務めることが必要。			

令和4年度 博物館評価調査

中期目標・計画番号	12	所管G	博物館基盤G			
項目名	情報発信					
計画策定担当者	学芸主査	学芸主幹	所要見込額 (千円)	前年度	当年度	全体所要額
	櫻井万里子	鈴木琢也		5,338 (6,018)	5,338 (6,018)	
予算計上	□情報システム整備費、総合政策部随計上 [5,338千円] ※図書購入費は、北海道博物館試験研究費(情報集積推進事業)のなかの図書購入費 [680千円] を充当					
年度計画	重点項目 (重要性・緊急性)	【(1)ア】 収蔵資料データベースに登録する情報(デジタルカメラによる写真撮影、ネガフィルムのスキャン、資料情報内容の調査等)の拡充推進(各研究Gへの働きかけ)(※) 【(1)ア】 収蔵図書(道内外の博物館展示会図録等を含む)の整理とデータベース登録 【(1)ア】 北海道博物館(旧開拓記念館、旧センター含む)刊行物(特別展図録、研究紀要、ニュースレター等)のスキャンによるアーカイブ化の検討 【(1)イ】 収蔵資料データベース、収蔵図書データベース、刊行物アーカイブの公開のあり方検討				
	一般項目	(1) 情報発信機能の強化 【ア】 情報システム(収蔵資料データベース)の保守・管理・機能拡充(※) 【イ】 情報システムを活用した関係機関(道内外博物館、文書館、図書館等)とのネットワーク構築に向けての検討(道民サービスGと連携) 【イ】 デジタル技術を用いた総合展示の情報発信(※) 【イ】 『北海道博物館資料目録』刊行実施計画の作成 (2) 道民の「知りたい」気持ちへの支援 【ア】 収蔵図書の充実 [年度末時蔵書数見込 153,000冊程度] 【ア】 図書ボランティア制度の運用 【イ】 図書室の開架部分のレイアウトや表示等を工夫し一般来館者が気軽に利用しやすい環境を整備 [年間利用者見込 3,500人程度(うち図書室のみの利用者 35人程度)] 【イ】 企画展示および総合展示の理解を深めるための図書展示コーナーの更新・運営(年間6回程度) 【ウ】 各機関、個人からの問い合わせなどのレファレンス対応と推進 [年間見込 560件程度] 【ウ】 レファレンスの窓口一元化(ICTを活用したレファレンスなど)と効率化(よくある問い合わせQ&Aの開設など)による機能強化に向けた検討 【ウ】 関係機関(道内外博物館、文書館、図書館など)との連携によるレファレンスの検討				
前年度との主な変更点	・重点項目、一般項目の(※)の項目は、【中期目標・計画/重点①】「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」の具体的検討(→文化観光推進法に基づく北海道立総合博物館を拠点とした拠点計画の策定・国への認定申請等による「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」の実現に向けた取組を推進)とリンクし、より充実・拡充をめざす方向で検討、実施していくものとした項目である。 ・一般項目の『北海道博物館資料目録』について、令和4年度は刊行予定がないので「執筆推進・編集・刊行」を削除し、来年度以降の実施計画の作成を進めることに変更した。					
直近の協議会評価意見に対する取り組み	・該当意見なし。					

【事前評価】

第一次自己評価	総括評価	学芸主幹	鈴木琢也	個別評価項目	個別評価
	A B C	【説明】 情報発信強化のため、その基盤整備等を計画しており、適切な年度計画が策定されている。一方、新型コロナウイルス感染症の感染拡大によっては図書室の利用者数などが縮小する可能性も想定される。		中期目標・計画との整合性	a b c
				年度計画の適切性	a b c
				協議会評価意見の反映	a b c
実現の可能性				a b c	
第二次自己評価	総括評価	学芸部長	堀 繁久	評価完了日	令和4年3月8日
	A B C	【意見】 今後の新型コロナウイルス感染症の感染状況の変化の中、事業の中止や縮小などの可能性のある中、オンラインでの情報発信の重要度は増してくると考えられる。情報基盤整備等の年度計画については適切と判断される。			

令和4年度 博物館評価調査書

中期目標・計画番号		13	所管 G	企画 G		
項目名		人材育成機能の強化と社会貢献				
計画策定担当者		学芸主査	学芸主幹	所要見込額 (千円)	前年度	当年度
		東俊佑	池田貴夫		0	0
予算計上						
年度 計画	重点項目 (重要性・緊急性)	【(3)】当館職員、とりわけ若手学芸職員の博物館に関する知識と技術力、及び研究力を高め、将来の博物館機能の向上に結びつける。また、そのために必要な支援の拡充に努めるための検討。				
	一般項目	<p>(1) 博物館実習生やインターンシップなどの受入れ 【ア】博物館実習生やインターンシップの受入れ [年間 20 人程度] 【ア】職場体験・見学実習の受入れ [年間 10 件、延べ 100 人程度] 【イ】高校・大学等のニーズに応じた当館職員の講師としての派遣</p> <p>(2) 外来研究員の受入 【 】外来研究員(外部研究者や大学院生等)の受入に関する検討・取組・制度整備</p> <p>(3) 当館職員の資質向上 【 】博物館学系研修会や技術研修会への当館職員の参加 [年間見込 10 件、延べ 20 人程度]</p> <p>(4) 職員の対外貢献 【 】招待講演(講座・講演会)等への職員派遣、各種委員・非常勤講師への就任、学術的な協力(指導助言等)、執筆依頼等 [年間 70 件程度]</p> <p>(5) 外部機関との事業連携 【 】他機関等との連携・協力 [年間 20 件程度]</p> <p>(6) 道民の豊かな暮らしづくり・北海道の未来づくりへの貢献 【ア】【ウ】アイヌ民族の歴史や文化、和人の歴史や文化、北海道における自然と人との関わり、そしてそれらを総括的に捉え持続可能な共生社会を模索する政策の推進 【イ】「北海道総合計画」(平成 28 年度～令和 7 年度)などとリンクし、北海道が抱える諸問題の解決、道民の豊かな暮らしづくりと北海道の未来づくりへと結びつく研究・博物館活動を推進</p>				
前年度との主な変更点		・博物館実習生の受け入れは、新型コロナウイルス感染症拡大対策の観点から、前所管 G からの引き継ぎで令和 3 年度は上限 15 名としたが、今年度の健康値は例年並みの 20 名に戻した。				
直近の協議会評価意見 に対する取り組み		・第 1 期中期目標・計画期の協議会意見「外来研究員の受け入れについて、早期に実現されることを期待したい」を踏まえ、外来研究員の受け入れ検討は継続して進める。				

【事前評価】

第一次自己評価	総括評価	学芸主幹	池田貴夫	個別評価項目	個別評価
	Ⓐ B C	【説明】 上記計画は妥当である。当館職員の資質の向上、社会貢献、外部人材の育成に、継続して取組むべき。外来研究員の受入については、他機関の事例、道の制度との整合性を研究し、今後の方向性を具体化させること。		中期目標・計画との整合性	Ⓐ b c
				年度計画の適切性	Ⓐ b c
				協議会評価意見の反映	Ⓐ b c
			実現の可能性	Ⓐ b c	
第一次自己評価	総括評価	総務部長	川田宣人	評価完了日	令和4年3月8日
	Ⓐ B C	【意見】 博物館実習生の受け入れや館職員の講師派遣など対外貢献の取組の継続のほか、中長期的な課題解決につなげられるよう取り組んでいくことが必要。			

令和4年度 博物館評価調書

中期目標・計画番号	14	所管 G	研究戦略 G			
項目名	研究成果の発信					
計画策定担当者	学芸主査	学芸主幹	所要見込額 (千円)	前年度	当年度	全体所要額
	大坂 拓	水島未記		599 (1,198)	549 (1,134)	
予算計上	□北海道博物館試験研究費（研究成果の集約・発信）[549千円] ※上記は、主に『北海道博物館研究紀要』の刊行費。 ※『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』刊行費は、北海道博物館事業費（アイヌ民族文化研究センター・調査研究）により実施 [585千円]。→「15 アイヌ民族文化研究センターの事業」を参照のこと。					
年度計画	重点項目 (重要性・緊急性)	【(1)】各種研究成果を『研究紀要』その他刊行物等を通じて効果的に発信していくための実施検討。				
	一般項目	(1) 学術刊行物などの刊行 【ア】『北海道博物館研究紀要』投稿原稿の執筆推進と編集・刊行（年間1回） 【ア】『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』投稿原稿の執筆推進と編集・刊行（年間1回） 【イ】職員の研究成果をわかりやすくまとめた刊行物等（叢書、新書、ブックレット、総合展示専門解説書等）の刊行の検討 (2) 学会への発信 【 】学会誌等、館出版物以外の出版物への執筆推進 [年間 35 件程度] 【 】学会、研究会等での発表推進 [年間 20 件程度]				
前年度との主な変更点	・変更点なし。					
直近の協議会評価意見 に対する取り組み	・該当意見なし。					

【事前評価】

第一次自己評価	総括評価	学芸主幹	水島未記	個別評価項目	個別評価
	Ⓐ B C	【説明】 コロナ禍のため調査研究の計画を実施可能な範囲に変更する可能性はあるが、年度末の『研究紀要』の刊行には影響はないものと判断できる。年度計画全体としては妥当であると判断する。		中期目標・計画との整合性	Ⓐ b c
				年度計画の適切性	Ⓐ b c
				協議会評価意見の反映	Ⓐ b c
実現の可能性	Ⓐ b c				
第二次自己評価	総括評価	学芸部長	堀 繁久	評価完了日	令和4年3月8日
	Ⓐ B C	【意見】 適切に計画作成、自己評価が行われたものと判断できる。			

令和4年度 博物館評価調査

中期目標・計画番号	15	所管G	アイヌ民族文化研究センター			
項目名	アイヌ民族文化研究センターの事業					
計画策定担当者	研究主幹	センター長	所要見込額 (千円)	前年度	当年度	全体所要額
	甲地利恵	小川正人		3,091	2,683	
予算計上	<input type="checkbox"/> 北海道博物館事業費(アイヌ民族文化研究センター分) [資料保存管理: 1,512千円、調査研究: 920千円、広報: 251千円] <input type="checkbox"/> このほか、総合政策部計上のアイヌ文化情報発信強化事業 [11,680千円、財源: 地方創生推進交付金、時限付き]の一部を使用予定。					
年度計画	重点項目 (重要性・緊急性)	【中期目標・計画/重点③】ウボボイ(民族共生象徴空間)とりわけ国立アイヌ民族博物館との連携を含めた北海道内博物館の活性化貢献に向けた検討・取り組み				
	一般項目	(1) アイヌ文化に関わる調査研究とその成果の普及 <調査研究> 【ア】【イ】 アイヌ民族文化研究センターが主体となって立案し実施する研究プロジェクトの推進 [道費による研究: 2課題] 【ア】【イ】 北海道博物館全体で取り組む海外との共同研究等の研究プロジェクトへの参画と推進 【ア】【イ】 日本学術振興会科学研究費補助金など外部資金を活用したアイヌ文化関連調査研究の推進 【中期目標・計画/重点④】樺太(サハリン)に関わる資料の収蔵・保管、調査研究、展示活動を推進する「樺太記憶継承事業」の推進 <資料の収集と整理・公開> 【イ】 アイヌ文化に関する資料の収集と整理の推進 【ウ】 採録等による資料についての公開計画の策定とこれに基づく公開の実施(諸手続含む) 【イ】【エ】 アイヌ文化関係資料のデジタル化・情報発信の促進 <研究成果の発信と普及> 【エ】『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』の編集計画の策定と投稿の奨励・推進 【エ】 館内外における教育普及事業(講座、ワークショップ等)を通じた研究成果の発信や理解促進・教育普及の取り組み 【エ】 当館における企画展示の立案・実施(第18回企画テーマ展(アイヌ工芸品展)を予定) 【エ】 当館における展示資料の入替及び総合展示内クローズアップ展示の更新 【エ】 道内市町村と連携・協力した「アイヌ文化巡回展」の開催(幕別町、長万部町) 【エ】 アイヌ文化紹介小冊子『ボン カンピソ』(全1~9巻)の増刷・配布[都度実施] 【エ】 広報誌『森のちゃれんがニュース』の「アイヌ民族文化研究センターだより」などを通じたアイヌ民族文化研究センターの活動に係る情報の発信 (2) アイヌ文化に関する学術情報の集約と発信・研究支援 【ア】 アイヌ文化に関する学術情報(収蔵資料データ、調査データ、文献情報等)の集約 【ア】 「アイヌ語アーカイブ」など当館ウェブサイトにおける情報発信 <対外支援・社会貢献、博物館等のネットワーク> 【イ】 市町村やアイヌ文化伝承活動団体等からの、アイヌ文化の学習や伝承活動、展示等の事業に関する依頼・照会に対する、専門的見地から助言・支援・協力等。 【ア】 国立アイヌ民族博物館によるネットワーク事業への参画				
前年度との主な変更点	・ 特段の変更はなく、前年度に引き続き、中期目標・計画に基づき個別の事業の年度計画を策定し実施する。					
直近の協議会評価意見に対する取り組み	・ 資料・情報の収集整理、発信、公開などの遅延、目標設定と計画設計の見直しについての評価意見を踏まえ、資料整理については引き続き年度当初に課題と計画を検討する場を設け、担当の分担及び整理・公開や目録刊行等のスケジュールや期限をより明確にした計画を立てる。 ・ 国立アイヌ民族博物館との連携や役割分担に関する指摘を踏まえ、同博物館を中心とするネットワークへの参加など、情報の提供や共有、意見交換等の機会を広げている。					

【事前評価】

第一次自己評価	総括評価	研究主幹	甲地利恵	個別評価項目		個別評価
	Ⓐ B C	【説明】 感染症拡大が長期化する中、出張を伴う調査等の時期についてはなお流動的であるが、柔軟な変更が可能ないように個別の研究課題や担当資料の整理作業等、具体的な計画の立案と検討を図り、進めていける見通しである。		中期目標・計画との整合性	Ⓐ b c	
				年度計画の適切性	Ⓐ b c	
				協議会評価意見の反映	Ⓐ b c	
実現の可能性				Ⓐ b c		
第二次自己評価	総括評価	センター長	小川正人	評価完了日	令和4年3月4日	
	Ⓐ B C	【意見】R4年度も感染症拡大等で事業の具体的な見通しが難しい時期が続くと思われるが、資料整理とその情報発信を着実に進めるなど実効性が見込める計画を策定している。道立総合博物館におけるアイヌ文化に関する理解促進や継承・復興支援はいつそう重要な責務となると考えられるので、当館開設からここまでの成果と課題を踏まえ、当面の計画の遂行とともに中期的なアクション(行動・実施)計画の検討にも着手することが望ましい。				

令和3年度 博物館評価調査

中期目標・計画番号	16	所管 G	北海道博物館 (企画 G)			
項目名	4つのビジョン (重点目標)					
計画策定担当者	主査	主幹	所要見込額 (千円)	前年度	当年度	全体所要額
	東俊佑	池田貴夫		0	18,458	277,458 (R4~8年度)
予算計上	<p>□【新規】野幌森林公園エリア活性化・拠点化事業 (文化観光拠点施設機能強化事業) [18,458 千円、財源：文化観光拠点施設機能強化事業補助金、地方創生臨時交付金、時限付き]</p> <p>※ウボボイ・国立アイヌ民族博物館との連携については、総合政策部計上のアイヌ文化情報発信強化事業 [11,680 千円、財源：地方創生推進交付金、時限付き] の一部を使用予定 (→「15 アイヌ民族文化研究センターの事業」を参照のこと。)</p> <p>※樺太記憶継承事業 [6,546 千円、財源：基金繰入金、時限付き (15 年間)] (→ 1 資料の収集・保存、2 展示、3 調査研究を参照のこと)</p>					
年度計画	重点項目 (重要性・緊急性)	<p>【中期目標・計画/重点①】「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」の具体的検討 (→文化観光推進法に基づく北海道立総合博物館を拠点とした拠点計画の策定・国への認定申請等による「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」の実現に向けた取組を推進)</p> <p>→総務部が所管し、学芸部、研究部と連携して取り組む</p> <p>【中期目標・計画/重点②】道民参加型の活動の推進</p> <p>→企画 G (道民参加の推進) が所管し、博物館基盤 G、道民サービス G、研究戦略 G と連携して取り組む。</p> <p>【中期目標・計画/重点③】ウボボイ (民族共生象徴空間) とりわけ国立アイヌ民族博物館との連携</p> <p>→アイヌ民族文化研究センターが所管し、企画 G (博物館ネットワーク) などと連携して取り組む</p> <p>【中期目標・計画/重点④】樺太 (サハリン) に関わる資料の収集・保管、調査研究、展示活動を推進する「樺太記憶継承事業」の推進</p> <p>→研究戦略 G が所管し、博物館基盤 G、各研究 G などと連携して取り組む。</p>				
	一般項目					
前年度との主な変更点	<p>・「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」の具体化・実現を図る一環として、令和2年5月に施行された文化観光推進法に基づく拠点計画を策定・申請を行うこととし、【中期目標・計画/重点①】に記載した。</p> <p>※「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」の具体化・実現に向けた文化観光推進法に基づく拠点計画において実施される個別事業については「1」～「15」の各シートで評価し、文化観光拠点施設機能強化事業の総体に関する評価は本シートで評価する。その他の重点項目については、道民参加型の活動の推進は「10 道民参加の推進」、国立アイヌ民族博物館との連携は「15 アイヌ民族文化研究センターの事業」、樺太記憶継承事業のなかの資料の保管・収集は「1 資料の収集・保存」、調査研究は「3 調査研究」、展示活動は「2 展示」でそれぞれ評価する。</p>					
直近の協議会評価意見 に対する取り組み	・該当意見なし。					

【事前評価】

第一次自己評価	総括評価	学芸主幹	池田貴夫	個別評価項目	個別評価
	Ⓐ B C	【説明】 計画は妥当である。第2期の重点項目として、館全体で意識的に取り組む事項である。また、重点①の「構想」の実現に向けた取組として、文化観光推進法に基づく拠点計画の策定・申請を計画に盛り込むこととした。		中期目標・計画との整合性	Ⓐ b c
				年度計画の適切性	Ⓐ b c
				協議会評価意見の反映	Ⓐ b c
				実現の可能性	Ⓐ b c
第二次自己評価	総括評価	総務部長	川田宣人	評価完了日	令和4年3月8日
	Ⓐ B C	【意見】 「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」の実現に向け、第2期における重要な取組として文化観光推進法に基づく計画の認定を目指すこととしており、計画の実現のため全館的な体制のもとで取り組むことが必要。			